

史学科だより（令和4〔二〇二二〕年度）

教員構成

令和四年度の専任教員は、定年でご退職された寺沢知子先生の後任として、九州大学より齋藤瑞穂先生をお迎えしたことにともない、教授として川森博司・村田路人・松下孝昭・山内晋次・吉村真美、准教授として梶木良夫・齋藤瑞穂・鈴木宏節の各先生という構成となった。昨年度に引き続き、史学科の主任は松下孝昭先生、大学院日本史学専攻主任は村田路人先生が務められた。非常勤講師としては、大学院の日本中世史担当として、引き続き永松圭子先生にご出講いただいた。また学部の授業では、秋山浩三・磯部淳史・伊藤一馬・上山益己・尾崎真理・金子直樹・木村典子・島津毅・竹原千佳・菅・塚本浩司・サラIIデュルト・豊福一・中阪守・西本幸嗣・浜田直也・菱田淳子・深井明比古・福田和浩・毛利英介の各先生にご出講いただいた。

史学会の活動

三年目に入ったコロナ禍のため、恒例の夏季休暇中の研修旅行や一月の史学会総会は、本年度も開催できなかった。なお、『神女大史学』については、論文三本・研究ノート一本・史料紹介一本などを掲載して、第三九号が滞りなく刊行された。

史学科の活動

二〇二二年度の授業に関しては、そのほとんどを対面授業として開講することができた。また、各授業で実施されている学外での実習・見学もほぼ従来通りにおこなわれた。ただ、完全にコロナ禍前の状況に戻っているわけではなく、教員・学生ともに教室・研究室でのマスクの着用などの感染対策を維持しつつ、流行の収束を待ち望む忍耐の日々が続いた。